

各種水槽および周辺機器の企画・設計・施工・メンテナンスまで一環して行うツルマル水産設備(名古屋市中川区、<http://www.turumaru.ecnet.jp/>)は、業務用活魚水槽設備の専門メーカー。創業が1980年代という同社で、18年前に開発したのが泡沫(ほうまつ)処理ろ過装置だ。

ロングヒットを追う

ツルマル水産設備

極小サイズで性能アップ

泡沫処理ろ過装置は、水槽の水をきれいにする装置で、泡沫処理、つまり泡を使うのが特徴。従来、活魚水槽は生物ろ過と言

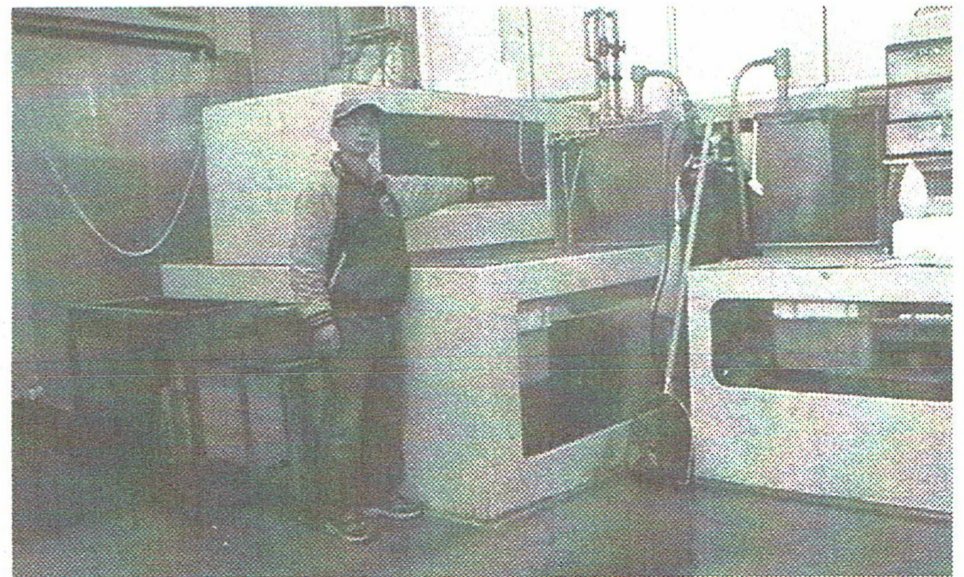
って、汚れを食べるバクテリアを使ってきれいにしてきた。そんな時、たまたま、「明治時代に泡を利用したろ過装置があった」ということを知り、18年前博の時の「海水魚のタイと淡水魚のコイが同じ水槽で泳いだ」という記事。この水槽に使われ

薬品使わず水槽の不純物除去

た」ということを知り、18年前博の時の「海水魚のタイと淡水魚のコイが同じ水槽で泳いだ」という記事。この水槽に使われ

泡はマイナス電荷を持つ性質

もともと泡沫処理ろ過装置は、水を勢いよく送る時に空気



水槽をきれいにする泡沫処理ろ過装置「プロボックス」

を改良し、マイクロバブルを出すことに成功したという。バージョンアップした泡沫処理ろ過装置を「プロボックス」と名付けて発売。また、活魚水槽とのセット「荒磯」も売り出した。

魚の病気減る報告も

大々的な宣伝もしていないため、プロボックスになって売り上げが大き

プロボックスによって溶存酸素も少し増えるので、病気の魚がほとんどいなくなったとの使用例もあった。こうしたこともあり、口コミによって少しずつ広まっている。また、さらに水槽の中の魚の鮮度を保持する装置を開発中だ。